

気候と気胸

8月中旬にそれまでの猛暑から一転して曇りや雨の日が続いたため、今年
は例年より慌ただしく季節が変化しました。急な気候の変化で体調に変化を来
している方も少なくないのではないのでしょうか？

当院の呼吸器外科で担当している疾患の一つに「気胸」という病気がありま
す。気胸とは、何らかの原因で肺に穴があいて胸腔内に空気がたまってしま
う病気で、発症すると胸痛や呼吸困難を来します。その原因には肺癌、肺気腫、
肺炎、胸部外傷、肺結核など様々なものがあります。



また、肺胸膜直下に存在するブラやブレブと呼ばれる風船状の袋が破裂することによって発症する気胸があ
ります。何を契機に破裂してしまうのかは不明で、自然に発生してしまうため自然気胸と呼ばれています。

疫学的には背の高い痩せた 10～30 歳代の比較的若い男性に多いとされていますが、もしかしたら気候の
変化が、この自然気胸の発症に関係しているのではないかという説もあります。台風による気圧の変化が関係
しているといったものや、日照時間が少ない日、すなわち曇りや雨の日の発症が多いという報告もあり、この時
期は要注意かも知れません。

いずれにしても気胸は放置しておいても自然に治らないことが多く、むしろ悪化させてしまうことがあるため、
息切れや胸痛を自覚された際には他の病気の鑑別も含めて早めに病院を受診することをお勧めします。

気胸の治療法は、その発症原因となる疾患にもよりますが、胸腔ドレーンと呼ばれる管を胸腔内に留置する
ことで治る場合もあれば、手術を要することもあります。

手術では胸腔鏡という胸の中を観察することができるカメラを用いて小さな傷で手術することがほとんどです。

桐生厚生総合病院ではその他、人間ドックや肺がんドックにて CT 検診を行っております。

何か気になることがございましたら病院の健診係(☎0277-44-7160)までお問い合わせください。



胸腔ドレーン



胸腔鏡手術

【呼吸器外科診療部長 田嶋 公平】

